

4

北海道の伝統・文化と先人たち

でんとう

せんじん



豊栄神社



神社祭りのみこし行列

めぐみさんたちが住んでいる恵庭市では、毎年9月になると、豊栄神社のお祭りが行われます。あさひさんは、このお祭りが楽しみで、おみこし行列や子ども相撲に参加しています。また、お店もたくさん出て、大ぜいの人がおとずれます。



「豊栄神社はとても昔から恵庭にあるようだよ。」



拓望の像

恵庭に、本格的に人々が開拓にやって来たのは、1886(明治 19)年、山口県からです。その前年に島田勘助と田中梅太郎の2人が調査にやって来ました。

この像はその時、馬追山から連なる高台から、この恵庭の地をながめた時のすがたなのです。



こんなに遠くから恵庭にやって来たんだね。

山口県



山口県の位置



「神社やお祭りは何のためにあるのかな。大切に守られてきたわけを知りたいな。」

豊栄神社ができたのは、恵庭にたくさんの開拓の人々が来たころでした。恵庭を開拓した人々は、寒さやこう水、飢えにたえながら、畑作りをしていきました。



「明治になって、北海道にはたくさんの開拓の人が来たんだね。」



「今はたくさんの道路があるけれど、開拓のころはせまい道がたった1本しかなかったなんて、不便だっただろうね。」



「畑では、アワ、イナキビ、ソバ、イモ、大豆などを作ったと聞いたけれど、お米はいつごろ作るようになったのかな。」



キーワード

めいじ

かいせつ

明治

1868年～1912年までの時代。
今から140年くらい前。

かいたく

かいせつ

開拓

山や森を切りひらいて、
田畑や住む土地を作ること。

学んでいこう

- 北海道には、どんな文化財や伝統があるのだろう。
- 北海道の発展につくした人たちについて調べよう。

北海道の でんとう 伝統と文化

？この時間の問い

えにわ 恵庭にある文化財や
ざい 伝統行事について、
どのようにして
調べていけばよいだろう。

活動

恵庭に残る昔について、知っていることを話し合おう。

話し合って、気になったことや、疑問に思ったことを、まとめよう。

まちに残る昔を調べる、学習計画を立てよう。

キーワード

かいせつ 年中行事

毎年決まった時期に行われる行事のこと。

1月	どんと焼き
2月	せつぶん 節分
3月	ひな祭り
4月	お花見
5月	たんごの せつく 節句
6月	田植え
7月	七夕
8月	おぼん（七夕）
9月	お月見
10月	秋祭り（七五三）
11月	七五三
12月	もちつき・すすはらい

まちの昔をさがそう



ア おみこしをかつぐ子どもたち

めぐみさんたちは、恵庭にずっと昔から残されている古い建物や、記念碑などについて話し合うことにしました。



「公園に、石の記念碑があったよ。開拓の記念碑だったよ。」



「恵庭に残る昔について調べてみたいな。」



「昔から、お祭りが続いていると、聞いたよ。」

めぐみさんたちは、神社祭りについて、くわしく調べることにしました。

そこで、お祭りについて知っている、豊栄神社の方に、お手紙を出すことにしました。



イ 昔から残る石碑
(恵庭市 泉町)



ロ 富山県人開拓の碑



ハ まちで見つけた古い建物
(恵庭市島松 夢創館)

本間 様 ○○小学校 4年2組 松下 めぐみ

わたしたちは、社会科の学習で、豊栄神社の祭りについて調べようとしています。そこで、祭りのことをよく知る本間さんから、お話をうかがいたいと思います。

よろしければ次のことについて教えてください。

- ・ 神社や祭りはいつごろからあるのか。
- ・ 祭りは何のために行われているのか。
- ・ 祭りには、どんな人たちがかかわっているのか。

よろしくお願いします。



ニ カリンバ遺跡
からの出土品

キーワード

文化財

昔から伝わる文化として、ねうちのある物やわざのこと

あさひさんのノート

調べる内容と 順番

- ① 神社は、いつごろからどうしてできたのだろう。
- ② どうして祭りをするのだろう。
- ③ 人々のどんな願いがこめられているのだろう。
- ④ 祭りのほかにどんな伝統行事があるのだろう。

学びのてびき

豊栄神社での調べ方

- 神社祭りについて調べたいことを話し合う。
- 神社の方にインタビューしてわかったことをメモする。
- 調べてわかったことをまとめる。

みんなでつくった学習問題

まちに伝わる祭りや行事は、どのようにして続けられてきたのだろう。
また、北海道の文化財や伝統行事を調べよう。

？この時間の問い

まちに^{つた}伝わる祭りや伝統
げいのうは、
どのように受けつがれて
きたのだろう。

ひきつがれる祭りや^{でんとう}伝統げいのう

豊栄神社は、1874（明治^{めいじ}7）年に^た建てられました。
恵庭には、^{やまぐち}山口県や^{とやま}富山県の人たちがうつ
り住みました。

活動

とよさか
豊栄神社祭りについ
て、調べよう。

えにわ
恵庭市の伝統げいのう
について調べよう。

行事にこめられている、
まちの人たちの^{ねが}願いを
まとめよう。



㊦ 神社の入り口にある^{かんぱん}看板



㊦ 富山県・山口県の位置



㊦ 神社を出発するおみこし



㊦ 神社を出発する子どもおみこし



㊦ 子ども^{すもう}相撲

豊栄神社の本間さんの話

豊栄神社では、毎年9月に例大祭^{れいたいさい}を行
っています。この祭りは農作物のしゅ
うかくを^{かんしゃ}感謝し、^{ちいき}地域に住む人々のさ
らなるしあわせを^{ねが}願ってするためのも

ので、100年以上続いています。

この神社や祭りは、古く遠い地から^{かいたく}開拓にやってき
た人たちの心のよりどころとして、長い間恵庭の人々
によって守られてきました。

^{じだい}時代が変わり、^か人々の思いや考え方も変わっていき
ますが、昔から大切にされてきた考えや文化を守りな
がら、これからも^{はってん}地域の人たちのささえとして、また
これからのまちの発展のために、続けていきたいと思
います。

次に、祭りで見かけた「すずらんおどり」に
ついて、おどりほぞん会をたずねました。

ほそん会の森谷さん^{もりや}の話



「すすらんおどり」は、40年ほど前からつづく伝統^{さん}げいのうです。当時のまちに住む人々が声をかけ合い、みんなが参加しやすく、まちを盛りあげることに役立てようと始まりました。

おどりの動きは市の花「すすらん」をテーマにつくられ、まちの人々の健康^{けんこう}、地域の発展や五穀^{ごこく}豊穰^{ほうじょう}を願っておどります。

これから小さな子からお年よりまで気軽に参加し、まちのことを大切に思っ、この活動が長く続けられていくことを願っています。

㊦ 「すすらんおどり」にこめられた願い



㊧ おどりの練習の様子



㊨ 祭りで行われたすすらんおどり



「祭りには、まちの人たちの思いや願いがこめられているんだね。」



「祭りや伝統^{つづ}げいのうが続くためには、たくさん^{どりょく}の人々の努力があるんだね。」



「恵庭^{い がい}以外の伝統行事も調べてみたいな。」

健康^{けんこう}や豊作^{ほうさく}を願うだけでなく、最近^{さいきん}の祭りは、まちを盛りあげるための行事としても、役立っているんだね。

キーワード

かいせつ 五穀^{ごこく}豊穰^{ほうじょう}

米などの農作物が豊かにみること。

かいせつ 伝統^{でんとう}げいのう

古くから伝わる芸術やぎのう。音楽やおどり、絵や工芸品などがある。

かいせつ 伝統行事

古くから伝わる行事で、年中行事も伝統行事の一つ。



次につなげよう

北海道の伝統行事を調べたいな。

けいたさんのノート

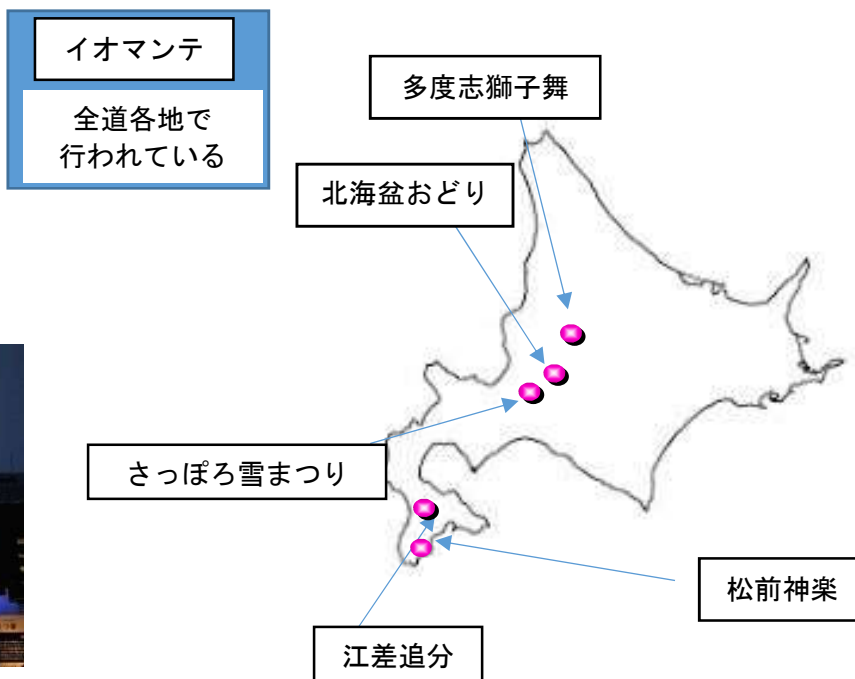
- ・お祭りは楽しいだけではなく、食べ物や健康に感謝しているということがわかった。
- ・地域の人たちの努力で、お祭りやすすらんおどりがささえられていることがわかった。



松前神楽



さっぽろ雪祭り



この時間の問い 北海道の文化財や伝統行事

北海道の文化財や
伝統行事を調べよう。

「恵庭市^{えにわ}のとなりの千歳市^{ちとせ}には、100 年以
上^{じょう}も前から獅子舞^{ししまい}が行われていたよ
うだよ。」

活動

調べたいことを
たしかめよう。

「わたしも、見たことがあるわ。今では、
地域^{ちいき}の人たちが、たいこをたたいた
り、獅子舞^{ししまい}をおどったりする練習^{れんしゅう}を
して引きついでいるそうよ。」

祭りや伝統げいのうを
よく知っている人に、
聞いてみよう。

「北海道には、他のまちにも、昔から続
いている文化財や伝統行事があるの
か、調べてみたいね。」

行事にこめられている、
まちの人たちの
願い^{ねが}について
まとめよう。

めぐみさんたちは、図書館やインターネット
で、北海道の文化財を調べてみました。北海道に
は、国^{えん}が選んだ文化財が 178 件、北海道が選んだ
文化財が 166 件（令和 4 年 9 月現在）あるそうで
す。

北海道の主な伝統行事

まつまえ かぐら 松前神楽	松前町	道内最古の芸能とされている。面をつけて舞う「扇舞」が有名。
たどし 多度志 獅子舞	ふかがわ 深川市	「多度志神社例大祭」に伝わる獅子舞。2頭の獅子がいのしし退治をするもので、道内に多数ある富山県由来の獅子舞の中でもオリジナルのすがたをよく今に伝えている。
さっぽろ 雪祭り	さっぽろ 札幌市	毎年2月上旬、札幌市で開かれる。1950（昭和25）年、地元の高校生が作った6基の雪像が祭りの始まりである。今では、海外からの観光客も多数訪れる。
北海 盆おどり	みかさ 三笠市	北海道の盆おどりでよく歌われる「北海盆歌」は、三笠の幾春別地区が発祥の地とされている。
えさしおいわけ 江差追分	北海道 民謡	日本を代表とする民謡の一つで、北前船によって江差に運ばれ、越後の「謙良（ケンリョウ）節」と信濃の追分とを加えて独特の音調を持つ「江差追分」が誕生したと言われている。
イオマンテ	アイヌの 伝統行事	アイヌの人々の酒や供物をささげ、クマの神をもてなし、多くの土産を持たせ、くま神の霊を神の国へ送り返す儀式。



㊦ 多度志獅子舞



㊦ 北海盆おどり



㊦ 江差追分



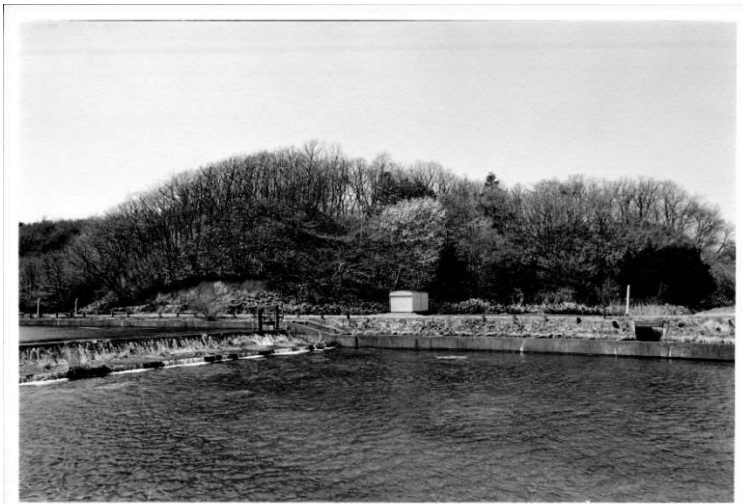
㊦ イオマンテ

めぐみさんたちは、北海道の文化財や伝統行事を調べていくうちに、アイヌの人々が深くかかわっていることがわかりました。

そこで、アイヌの人々の歴史や生活、文化について、調べてみることにしました。

次につなげよう

アイヌの人々の歴史や生活、文化を調べたいな。



ア 茂漁チャシの跡

イ 千歳山中を歩くアイヌの親子



— ? この時間の問い — アイヌの人々の歴史や生活 — — — — —

アイヌの人々の
歴史や生活について
調べよう。

めぐみさんたちは、先生から、北海道には
本州からの人々が開拓に入る前から、アイヌの
人々がくらしていたことを聞きました。

活動

アイヌの人々の
歴史や生活を
調べよう。

そこで、まずアイヌの人々の歴史を調べてみ
ることにしました。

アイヌの人々の
歴史や生活について
調べてわかったことを
まとめよう。

今から 800 年くらい前から、本州との交易が
行われるようになり、擦文文化の時代からアイ
ヌの文化の時代へと変わっていきました。

北海道のアイヌの人々の歴史

8～13 世紀	さつもん 擦文文化が栄える。	めいじ 明治時代	せいふ 明治政府による開拓が進む。
13 世紀	海をこえて交易を行う。 (アイヌ文化)	大正時代	ふっけん 民族の復権を求める運動がおこる。
1457 年	コシャマインの戦い	しょうわ 昭和時代	さべつ 差別や偏見に苦しむ。
1593 年	おしま 渡島半島に松前藩ができる。	1997 年	しんこうほう アイヌ文化振興法の制定
1669 年	シャクシャインの戦い	2020 年	きょうせいしやうちやう 「民族共生象徴空間」ウポポイ開設
1789 年	クナシリ・メナシの戦い		
1779 年	ばくふ 江戸幕府の直接支配が始まる。		



地名	もとになったアイヌ語	言葉の意味
えにわ 恵庭	エエンイワ	「エエン」とは、「頭のするどい、とがった」、 「イワ」は高い山の意味で、まちの西方に そびえる恵庭岳のこと。
いざり 漁	イチャン	「サケの産卵する場所」の意味、和人はな まってイザリとよんだ。かつて漁川にはサ ケの大群が遡上したことを物語る。
島松	シュマオマプ	「石のあるところ」。島松川上流の島松沢 付近に見られる熔結凝灰岩は有名。
といそ 戸磯	トイシリ	「野獣が土を食べているところ」、または 「野獣が冬を越すところ」。

本州から和人が移住するようになり、交易を
めぐってアイヌの人々との間で争いも起きる
ようになりました。コシャマインの戦い（1457
年）、シャクシャインの戦い（1669年）は、その
代表的なものです。

アイヌの人々は、アイヌ語で「チセ」とよばれ
る住居に住んでいました。数個から十数個のチ
セで「コタン」とよばれる村をつくり、村長を中
心にして生活していました。チセづくりは、コタ
ンの人たちが協力して行いました。チセは、柱
になるじょうぶな木と屋根やかべをおおう植物
で作られました。

チャシ

アイヌ語の砦ともいわれ
ているが、ユカラの中では
チセ（家）、神のところ、
聖地、見張りなどの場所と
して伝えられている。

このほかにも、郷土
資料館に行くと、恵庭の
アイヌの人々のことがわ
かるよ。調べてみるのも
いいなあ。



㊦ アットウシ



㊦ チセ



㊦ シャクシャイン像

次につなげよう

アイヌの人々の文化
を調べよう。

アイヌの人々の文化

？この時間の問い

各地に残る
アイヌの人々の
文化について調べよう。

活動

アイヌの人々の
文化を調べよう。

アイヌの人々の
文化について
調べてわかったことを
まとめよう。

「アイヌの人々は、身近な^{そざい}素材でつくっ



た、じょうぶな着物を着て生活して
いたんだって。」



「『ユカラ』って、アイヌの人々が^{くちづた}口伝
えてきた文学だそうよ。」



「儀式の時は、おどりをおどったり、歌
を歌ったりしたそうよ。」



ア 儀式のおどり



イ サケの皮で作ったくつ



ウ 楽器「ムックリ」

衣服	アットウシ	植物のせんいでつくった衣服。北海道に多いオヒョウなどの木の皮のせんいからつくった物が多い。
	チェブケレ	サケの皮で作ったくつ
行事	イオマンテ	クマの ^{れい} 霊送りのこと。カムイをカムイモシリへ送り返す儀式 ^{ぎしき} のなかで、もっとも ^{じゅうよう} 重要で盛大 ^{せいだい} に行われたもの。
	「ウポポ」 「クリムセ」	祭りや儀式のときに ^か 欠かせない歌やおどり。
言葉	日本語に取り入れられたアイヌ語	・ラッコ ・トナカイ ・エトピリカ ・シシャモ ・コンブ
	アイヌ語を語源とする北海道の地名	・ ^{もんべつ} 紋別 ・ ^{りしり} 利尻 ・ ^{わっかない} 稚内 ・ ^{あつけし} 厚岸 ・ ^{さろま} 佐呂間 ・ ^{しれとこ} 知床 ・ ^{さっぽろ} 札幌 ・ ^{おしやまんべ} 長万部 ・ニセコ ・ ^{のぼりべつ} 登別 など多数
アイヌ文学	「ユカラ」など(えいゆうの物語)	アイヌの社会には、 ^{いっばんてき} 一般的には言葉を文字で書き表す ^{しゅうかん} 習慣がなかった。親から子、 ^{まご} 孫へと口伝え(口承 ^{こうしょう})で伝えてきた。
楽器 ^{がっき}	トンコリ	・エゾマツやホオノキなどで ^{もくせい} つくる木製の ^{げん} 弦楽器。
	ムックリ	・竹をうすくけずってつくる楽器。

アイヌの人々は、儀式や祭りなどの場で、歌ったりおどったりして、カムイ（神）へ感謝の気持ちを表現したり、仲間と喜びや悲しみを分かち合ったりしました。

アイヌの子どもたちは、自然の中にあるものを使って、野山や川で遊びました。そして、遊びの中で生きていくために必要な技術を身につけました。

現在では、アイヌの人々の文化や芸術に関心を持ったり、親しみを感じたりする人がだんだんふえてきました。アイヌの料理を楽しんだり、身の回りの小物や衣服にアイヌ模様のししゅうを入れたり、民芸品をアクセサリーとして身に着けるなど、それらをくらしの中に生かす人も出てきました。

また、伝統的なおどりや歌、アイヌ語などを受けついでいこうとする人がふえ、その活動はより活発になってきました。



㊦ オヒョウの木



㊦ 楽器 トンコリ

神々への感謝と願いをあらわすおどり
リムセ
ホリッパ
つるぎ まい 剣の舞
弓の舞
つる 鶴の舞
水鳥の舞



「アイヌ語教室に行って、アイヌ語をたくさん学んだよ。」



「アイヌの楽器『ムックリ』の演奏の仕方を教えてもらったことがあるけど、難しかったなあ。」



「うちには、アイヌ模様をつかって作った小物があるよ。」

次につなげよう

北海道の祭りや伝統行事、文化財は、どのように受けつがれてきたのかな。

未来へ、受けつがれていくために



二つのことがらを整理して、共通することを読み取る。

- ① くらべることを表に書く。
- ② 二つのことがらについて、それぞれくらべる、こうもくごとに書く。
- ③ 二つのことがらに、共通することを読み取る。



ア イラクサ

あさひさんのノート

学習問題について
考えたこと

アイヌの人々の願い
を学び、自分たちにも
できることを・・・

めぐみさんたちは、学習問題をふり返り、豊栄神社祭りやアイヌの人々の文化について、調べたことを話し合いました。

みんなでつくった学習問題

まちに伝わる祭りや行事は、
どのようにして続けられてきたのだろう。



「豊栄神社祭りを調べた時も、祭りを広めるための取り組みがあったね。」



「アイヌの人々は昔、オヒョウの樹皮やイラクサなどの繊維を紡いだ糸で作られた服を着たり、自然の材料で作られたチセに住んでいたんだね。」



「食べるものも、すべて野山の動物や植物を食料としていたんだって。」



「アイヌの人々は、自然の恵みに感謝しながら、自然を大切にしてくらしていたんだね。」

話し合った後で、学習問題について考えたことをノートに書きました。



「恵庭だけではなく、北海道各地でも、今に引きつがれているものがあるんだね。」



「昔から受けつがれてきたものを守り伝えたり、さらに広めたりする人々には、共通する思いや取り組みがあるようだね。」

豊栄神社祭りとアイヌの人々の文化について、表にまとめてみることにしました。

豊栄神社祭り	くらべること	アイヌの人々の文化
100 年以上前	始まり	約 800 年前ぐらい
遠い地から開拓 ^{かいたく} にやってきた人たちの思いを受けつぎ、大切にしていこうとしてきた。	人々はどんな思いで受けついでいるか。	アイヌの伝統的なおどりや歌、アイヌ語などを受けつこうという意識 ^{いしき} が高まってきた。
これからも地域の人たちといっしょに、まちの発展 ^{はってん} のために続け ^{つづ} ていきたい。	守り伝えたり、さらに広めたりするためのくふう	学校でもアイヌの文化について学習をし、アイヌの文化を理解 ^{りかい} する活動を広めたい。

地域の人や子どもたちに、伝えるための取り組みをしていることは、どちらも共通しているね。



北海道の文化もアイヌの人々の文化も、長い時間をかけて今に受けつがれてきたんだね。



キーワードをふり返ろう^{かえ}

- 年中行事
- 伝統^{でんとう}げいのう
- 伝統行事
- 文化^{さい}財



「北海道の伝統^{でんとう}文化もアイヌの人々の文化も、より多くの人に知ってもらい、それぞれの文化を広めていこうという、取り組みがあるのは、共通しているね。」

めぐみさんたちは、地域^{ちいき}で受けつがれてきたものを、これからも守り^{つた}伝えていくために大切なことは何か、学習したことをもとに考えてみることにしました。

わたしは、アイヌの人々の言葉^{ことば}をもっと調べてみたいと思いました。
それは・・・



はってん 北海道の発展に つくした人たち

？この時間の問い

北海道の稲作について調べよう。

活動

北海道の農業の様子を地図帳で調べよう。

北海道の稲作について調べ、わかったことを話し合おう。

きもん
疑問に思ったことをもとに、学習問題をたてよう。



「わたしたちの住む恵庭には、田んぼが広がっているよ。」

北海道の稲作は、さかんなのかな。」



学びのてびき

いなさく 稲作

かいせつ

お米を実らせるイネをつくることを「稲作」といいます。



ア 恵庭市に広がる水田

北海道の稲作

あさひさんたちは、『北海道の地図を広げて』の学習で、北海道は日本有数の農業がさかんな地域であることを学びました。

あさひさんたちは、北海道の農業について地図帳で調べることにしました。



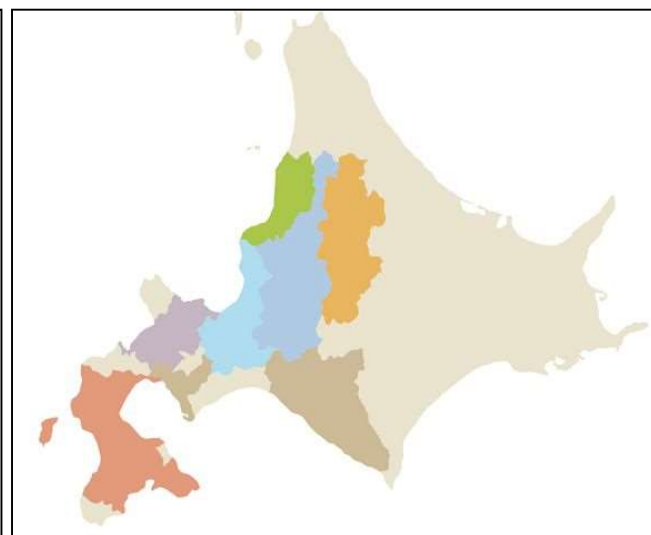
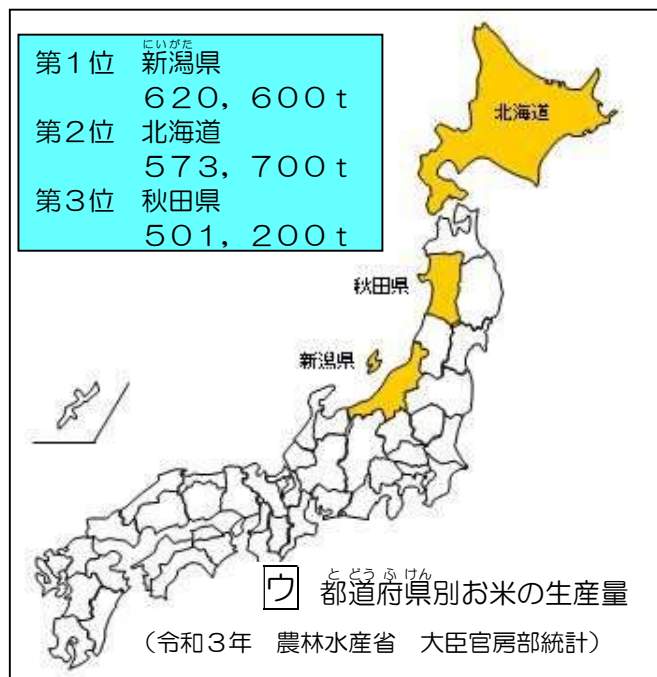
「北海道は、畑作や酪農がさかんなんだね。」

あさひさんたちは、北海道の稲作について調べることにしました。



さん お店にならぶ北海道産のお米





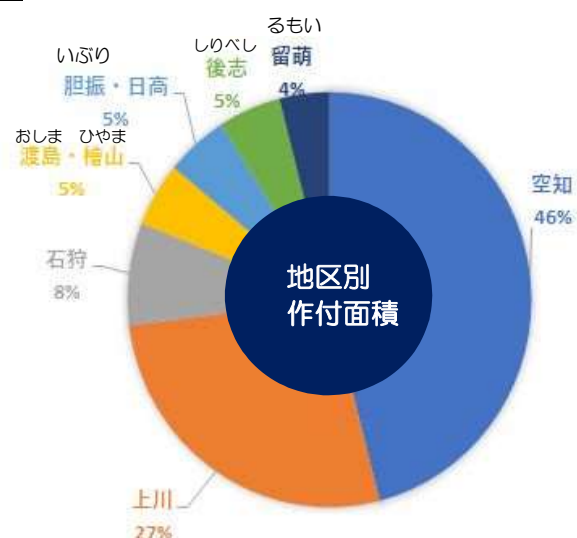
エ 北海道のおもなお米の生産地（令和4年）



「北海道のお米の生産量は、
全国2位なんだね。」



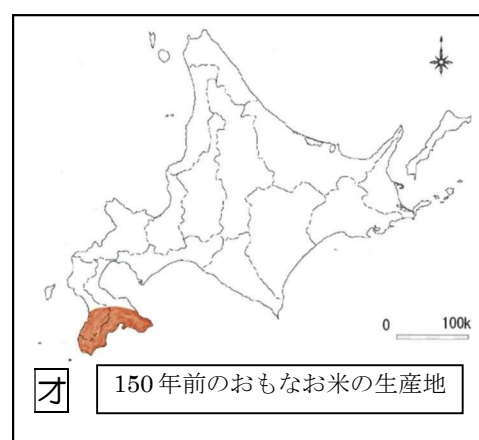
「北海道のいろいろな地域で
たくさんの種類のお米が
つくられているのね。」



先生が、今から150年くらい前の資料を見せてくださいました。あ
さひさんたちは、疑問に思ったことをもとに、学習問題を考えました。

◎みんなの疑問

- 昔の北海道の土地の様子はどうだったの
だろう。
- お米をつくっている地域が広がったのは
なぜだろう。
- 稲作がさかんになるためにどんな苦労が
あったのだろう。



みんなでつくった学習問題

北海道の稲作は、どのようにして
さかんになったのだろう。

次につなげよう

米がつけられていなかった
ころの北海道や恵庭は、
どんな様子だったのだろう。

？この時間の問い

昔の北海道や^{えにわ}恵庭はどのような様子だったの
だろう。

活動

昔の北海道や恵庭の
様子を調べよう。

北海道の^{かいたく}開拓の
様子について調べよう。

開拓者の^{くろう}苦勞や^{ねが}願い
を話し合おう。



ア 原生林やクマザサにおおわれた北海道

大地を切りひらく

今から 150 年以^い上^{じょう} 前の北海道の写真を先生
から見せていただきました。

キーワード

●^{げんせいりん}原生林

かいせつ

人の手がくわえら
れず、^{しぜん}自然のままの
森林

●^{かいたくし}開拓使

かいせつ

北海道の^{さんぎょう}産業をさ
かんにするために
おかれた国の役所



「森林でおおわれていたんだね。今の
^{じゅうたくち}住宅地や田や畑の広がっている様
子とずいぶんちがうよ。」



「人の手だけで、土地を切りひらいて
いるよ。考えられないくらい^{たいへん}大変な
作業だね。」

今から 150 年以上前、北海道は「えぞ地」とよばれていました。原生林やクマザサ
でおおわれ、アイヌの人たちがくらしていました。政府は 1869（明治 2）年に「開拓
使」という役所をつくり、北海道を開拓し、^{さん}産
^{ぎょう}業をさかんにしようとしました。本州から多
くの人たちが来て、開拓が始まりました。恵庭で
も^{こうち}高知県、^{とやま}富山県、^{やまぐち}石川県、山口県（和木町は
恵庭と姉妹都市）の人たちがうつり住み、開拓
が始められました。



イ 富山県人開拓の碑



「本^{ほんしゅう}州から開拓のためにやってきた人たちは、なれない北海道に来て、どんな生活をしていたのかな。」



「冬の寒さがきびしい北海道の生活は、とても大変だったと思うよ。」

キーワード

●開拓^{かいたく}

かいせつ

森林などを切りひらいて、田や畑、住宅地をつくること

●開こん

かいせつ

森林などを切りひらいて、作物のとれる田畑にすること

北海道を開拓した人たち

北海道の開拓のために、本州からうつり住んだ人たちの中には、明治時代^{めいじ}になって仕事^{しごと}がなくなった武士^{ぶし}たちもいました。政府^{せいふ}が北海道の開拓者を集めていることを聞き、開拓^{さんか}に参加したのです。その人たちは、開拓^{へいし}とともに兵士としての仕事もしていました。（屯田兵^{とんでんへい}といいます。）開拓者の生活はとても大変^{たいへん}でした。北海道の土地には、大きな木がおいしげり、クマザサがびっしり生えていました。

昔の人々は、住むための小屋^{こや}をつくりながら、昼間には、開こんにはげみました。農具は、クワとカマしかありませんでした。少しずつ畑を広げ、あれた土地でも育つヒエや、アワ、ソバなどを作り始めました。きびしい中での開こんと、食べ物のない中での仕事に、とても苦しみました。

そんな中でも、開拓者たちは、本州にいたころに食べていたお米がわすれられませんでした。「お米が食べたい。」とため息^{いき}をもらしていたそうです。



ウ 当時の衣服^{いふく}



エ 当時の食事



オ 小屋づくりの様子

あさひさんたちは、資料^{しりょう}をもとに開拓者の苦労や願いについて話し合いました。

次につなげよう

開拓した土地でどのような農業がすすめられたのだろう。

北海道の農業をさかんに

？この時間の問い

「開拓使」は、北海道の農業をどのようにすすめようとしたのだろう。

活動

「開拓使」が農業をどのようにすすめようとしていたのか、調べよう。

「開拓使」の考えと開拓者の願いをまとめ、話し合おう。

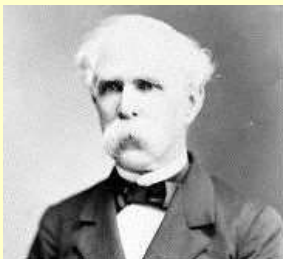
1874（明治^{めいじ}2）年に黒田^{くろだ}清隆^{きよたか}が第3代開拓使^{ちようかん}長官になりました。清隆はアメリカからホーレス・ケプロンやウィリアム・スミス・クラークをまねき、「開拓使10年計画」を立てました。炭^{たん}鉱^{こう}や鉄道、工場などをつくり、産^{さん}業^{ぎよう}をさかんにするとともに、北海道にあった農業をすすめようとしてしました。

「開拓者は、作物をつくるために、毎日しんぼう強く開こんしたのね。」



「『開拓使』は、北海道の農業を、どのようにすすめようと考えていたのかな。」

あさひさんたちは、ケプロンとクラークの考えについて、調べることにしました。



ホーレス・ケプロン

ケプロンは、北海道の開拓に、大きなえいきょうをあたえた人物です。黒田清隆の「開拓使10年計画」は、ケプロンの考えがもとになっています。

同じような気候^{きこう}のアメリカ式農業が、北海道にあっていると、ケプロンは考えました。寒い北海道には米作りがあわないと考え、稲作を禁止し、畑作や畜産、酪農をすすめようと考えました。日本でつくられていなかったトウモロコシや小麦を作り、パンや牛^{ぎゅう}肉^{にく}を食べる生活をすすめました。また、積極^{せっきよく}的に、馬^ばや機^き械^{かい}を農作業に取り入れようと考えました。



ウィリアム・スミス・クラーク

政府は、北海道の農業をさかんにするために、農業の教育が必要だと考え、札幌農学校（今の北海道大学のもとになった学校）をつくりました。クラークは、札幌農学校の初代教頭としてまねかれました。クラークは、北海道では広い土地を使い、畑作と畜産を組み合わせ、大きばな農業を行うべきだと考えていました。

9か月という短い間でしたが、熱心に教え、学生たちにもしたわれました。有名な「ボーイズ・ビー・アンビシャス」（少年よ 大志をいだけ）という言葉を残し、北海道をあとにしました。



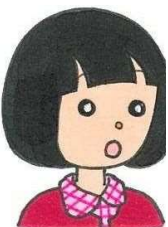
「『開拓使』は、畑作や畜産、酪農をさかんにしたいと考えていたんだね。だから北海道は、畑作や酪農がさかんなんだね。」

「開拓者は、『米を食べたい』と思っていたけれど、稲作は禁止されていたのね。」



開拓者の願い

政府は、寒い北海道で米ができるわけがないと考え、畑作や酪農をすすめる、水田をつくることを禁止しました。それでも開拓者は、「米をつくりたい」という願いをもっていました。なかには、いく度も米をつくろうとして、ろう屋にいれられる人もいましたが、それでも米をつくろうとする人が、あとをたちませんでした。



「開拓者は、米作りがあきらめられなかったのね。このあと、稲作はどうなったのかな。」

次につなげよう

稲作は、このあとどうなったのだろう。

どうして北海道では稲作が
できなかったのだろう。

活動

禁止されていた米
作りは、その後どの
ようになったか年表
で調べよう。

資料をもとに、
当時、稲作ができなか
ったわけを話し合お
う。

どのように、稲作の
問題を解決したのか
予想しよう。

あさひさんたちは、禁止されていた稲作が、
その後どうなったのか、疑問に思いました。
そこで、「北海道の米作り年表」で調べるこ
にしました。



「米作りは禁止されたけど、農民は
何度もちょうせんしたんだね。」



「農民の『米をつくりたい』という願
いはとても強かったのね。道南地方で
米作りに成功したけど、それ以外の
地域では稲作はうまくいかなかった
のね。」

【北海道の米作り年表】

1692年	およそ 320 年前	○今の文月村（道南地方の今の北斗市）で水田が開かれるが、失敗に終わる。その後、たびたび稲作にちょうせんしたが失敗に終わる。
1850年	およそ 170 年前	○大野村（道南地方の今の北斗市）で、高田万次郎が稲作に成功する。
1853年		○今の札幌で早川清太郎が米づくりをするが、こう水でやめる。
1869年	およそ 150 年前	○開拓使がおかれ、畑作や酪農を中心の北海道の農業にしようとする。 ・米作りは禁止されるが、農民の米作りへの思いが強く、道南地方を中心に水田が開かれた。道南地方より北でもたびたび稲作にちょうせんしたが失敗に終わる。
1873年		○中山久蔵が稲作に成功する。（北広島市島松）



「わたしたちの住む恵庭市には、水田が広がっているね。
今は、北海道の多くの地域で稲作が行われているけれど、
どうして当時は稲作が広がらなかったのかな。」

あさひさんたちは、資料^{しりょう}をもとに当時の米作りの問題点について話し合うことにしました。

稲作と農民

もともとイネは、あたたかい地方で栽培^{さいばい}されていました。夏が短く冬の寒さがきびしい北海道では、イネが栽培できないと考えられていました。稲作をするためには、寒さに強いイネをつくる必要^{ひつよう}でした。また、北海道は川の水が冷たく、イネが育つには冷たすぎました。また、田んぼに水をひく用水をつくること（かんがい）や、土づくりも大変な作業^{たいへん}でした。石狩平野^{いしかり}は、土が悪く、米作りのむずかしい地域でした。農民たちは、毎日の開こんで大変な生活^{たいへん}をすごし、食べるだけでせいっぱいでした。お金も技術^{ぎじゅつ}もなかったのです。

農民にとってのお米

当時、農民がお米を食べるためには、買うしか方法^{ほうほう}はありませんでした。お米のねだんは高く、きちょうなものでした。お米を作って売れば、生活が楽になります。また、お米は長い期間保存^{ほぞん}がきき、冬の長い北海道の食料^{しょくりょう}として便利な^{べんり}ものでした。また、わらは作物づくりなどに役立ちます。お米は同じ場所に続けてつくることのできる作物です。お米は、大変な価値^{かち}のあるものだったのです。



「北海道で米作りができるようにするために、寒さに強いイネをつくる必要^{ひつよう}なんだ。それ以外にもいろいろなことをしなければならないんだね。」



「年表に中山久蔵^{なかやまきゆうぞう}が米作りに成功したと書いてあったよ。調べてみよう。」

次につなげよう

中山久蔵は、どんな人だろう。



「寒地稲作発祥の碑」(うら)

ここは明治6年に中山久蔵が、初めて稲作に成功した地です。中山久蔵のおかげで、北海道に稲作が広がりました。

(碑の説明をかんたんにした文)

ア

「寒地稲作発祥の碑」(北広島市島松)

寒い土地での米作りの始まりを伝える記念碑。右がわには「中山久蔵」のレリーフがあります。



イ 76歳ころの中山久蔵

北海道の稲作の父 中山久蔵

あさひさんたちは、「寒地稲作発祥の碑」を見て、中山久蔵について話し合いました。

？この時間の問い

中山久蔵は、どんな願いをもって、米作りをしたのだろう。



「中山久蔵は、寒い土地で稲作を成功させた人なのね。久蔵のおかげで北海道に米作りが広がったのね。」



「開こんで大変だったのに、稲作に成功するなんて大変なことだよ。中山久蔵は、どんな人だったのかな。」

あさひさんたちは、資料をもとに久蔵について話し合うことにしました。

かつどう活動

「寒地稲作発祥の碑」をもとに、中山久蔵について話し合おう。

中山久蔵が米作りをしようとしたわけを調べよう。

中山久蔵について考えたことを話し合おう。



中山久蔵の育てた稲

工中山久蔵のおもなできごと

1828 年	約 190 年前	○今の ^{おおさか} 大阪府で生まれる。
1869 年	約 150 年前	○北海道（ ^{しらおい} 白老）にうつり住む決意をする。
1870 年（明治3）		○ ^{とま こ まい} 苫小牧にうつる。
1871 年（明治4）		○ ^{えん} 恵庭の島松にうつる。
1873 年（明治6）		4 町 歩の ^{ちやう ぶ} 畑地で ^{ざっこく} 雑穀80 俵を ^{ひやう しゅうかく} 収穫する。
1873 年（明治6）		○島松川の反対がわで米作りに成功する。
1879 年（明治12）	約 140 年前	○農民にただで種もみをくばり、稲作の指導を始める。
1884 年（明治17）		○島松駅で ^{たん ぶ} い取 扱になる。
1919 年（大正8）	約 100 年前	○92 歳でなくなる。

めんせきたんい 昔の面積単位を知ろう

・一歩（いちぶ）

一歩は約 3 m で、面積としては 1 坪（^{つぼ たたみ}畳二 畳分）と同じです。単位としては、ほぼ使われなくなっています。

・一畝（いちせ・いっせ）

1 畝は約 100 m² です。1a は 100 m² なので、1 畝=1a ともいえます。畝はもともと 30 歩を意味する言葉です。

・一反（いったん）

1 反は約 1,000 m²、10 r です。昔は、お米が 1 石（^{せいじん}成人1 年間の米消費量）分^{しやうひりやう}収穫できる面積を「反」としていたそうです。

・一町（いっちょう）

一町は約 10,000 m²、1ha です。10 反で 1 町になります。

きやうどしりやうかん 郷土資料館の人のお話

久蔵は、^{せんたいはん}仙台藩の^{ぶし}武士をしていました。42 歳の時に「身分はあてにならない。この世で本当にたよれるのは自分だけだ。これからの人生を生きなおしてみよう。」と考え、北海道に住む決意をしました。苫小牧あたりを開こんしましたが、作物は育ちませんでした。そこで、作物の実る土地をさがすことにしました。クマやオオカミに気をつけ、一人で^の野宿^{じゅく}をして島松（恵庭）にたどりつきました。

久蔵は、島松に住みつき、農業を始めようと決意しました。木を切り、クマザサの根をほり、畑を開こんして、アワ、ヒエ、キビなどの雑穀をつくりました。しだいに久蔵の^ど努力^{りよく}が実をむすび、畑の土もよくなり、雑穀が多くとれるようになりました。

多くの^{かいたくしゃ}開拓者と同じように、久蔵も「米のごはんを食べたい。」という願いをもっていました。久蔵の米作りの^のちょうせんが始まりました。



「久蔵は^{ぶし}武士をやめ、人生をかけて、
たった一人で農業をやろうとしたん
だね。」

次につなげよう

久蔵は、どのように米作りをしたのだろう。

？この時間の問い

久蔵は、どのような
米作りをしたのだろう。

活動

道南地方で稲作を成
功させた高田万次郎
について調べよう。

久蔵は、高田万次郎か
ら、どのような技術
を教わったのか
調べよう。

島松で、久蔵が稲作を
始めることについて、
当時の人たちは
どのように考えて
いたか話し合おう。

きゅうそう

久蔵のちょうせん

あさひさんたちは、久蔵がどのように
稲作を成功させたのか、調べることにしま
した。



「久蔵は、『島松でも米作りがで
きるはずだ。やってみよう。』
と考えたのね。」

「米作りの経験のない久蔵は、どうし
て米作りができたのかな。」



先生が、「道南地方で稲作に成功した高田万次
郎と久蔵とはつながりがあるよ。」と教えてくだ
さいました。あさひさんたちは、高田万次郎について調べること
にしました。



高田 万次郎

高田万次郎

300 年以上前から、道南地方では、これまでた
くさんの農民たちが、稲作にちょうせんしてきま
したが、失敗の連続でした。

1850 年（およそ 170 年前）に、道南地方の
大野村（今の北斗市）で稲作を成功させたのが、高田万次郎です。1848
年に万次郎は、父の松五郎とともに、畑を水田にし、用水をつくりま
した。世間から「米ができるかどうかわからないのに」と言われまし
たが、2 年後に、初めて水田に苗を植え、およそ 3600 kg のお米
を収穫しました。万次郎の成功をきっかけに、道南地方では稲作をす
る農民がふえていきました。



「万次郎は、道南地方で稲作を成功させた人なのね。

久蔵とはどんな関係があったのかな。」



北海道水田発祥の地碑
(北斗市教育委員会)

嘉永3年(1850)、大野村の高田松五郎・万次郎親子が苦勞の末、米作りに成功すると、近くの村々にも広がり、安政元年(1854)以降、米作りはようやく安定した。

明治6年(1873)になって、島松(現北広島市)に中山久蔵がこの地の品種「赤毛」で寒冷地稲作に成功し、米づくりは全道各地に広がったのである。(地碑の説明をかんたんにした文)平成18年3月吉日 北斗市教育委員会

万次郎の米作りをいかして

久蔵は、本州から島松にやってくるとちゅうで、万次郎の米作りを目にしていました。1873(明治6)年に久蔵は、米作りを教わるために、大野村へ出かけました。大野村では、お米を早く収穫することができ、寒さに強い早生種の「赤毛」という品種をつかっていること、米づくりには温度管理が大切なこと、長い水路をつくって、日光で水温を上げることを学びました。大野村の人たちは、「島松で米はつくれない」と考えていましたが、久蔵があまりにも熱心なので、種もみを分けてあげました。



「島松に種もみを持ち帰った久蔵は、どのように米作りをしたのかな。」

次につなげよう

島松ではうまく米作りができたのだろうか。

？この時間の問い

きゅうぞう
久蔵は、島松でどのように米作りをしたのだろう。



ア 米作りの様子

活動

久蔵が、どのように米作りをしたのか調べよう。

しままつ 島松での米作り

久蔵の米作りのくふうや努力について、話し合おう。



「島松に種もみを持ち帰った久蔵は、米作りを始めたんだね。」

「大野村と自然がちがう島松での米作りは、大変だったと思うよ。」



元気な芽が出た！

1873（明治6）年、久蔵は大野村で分けてもらった3kgの種もみを島松に持ち帰り、さっそく米作りを始めました。島松川から水を引き、苗代をつくり、種もみをまきました。数日で少し芽が出てきましたが、成長がとまってしまいました。「こんなに冷たい水の中では、育たないのもむりがな

い。なんとかくふうはできないものか。」と久蔵は考えました。
まずは、ぬるめの温水に種もみを10日間入れて、種もみに水分をふくませました。さらにお風呂をわかし、30度の温度を保つために夜もねずに温水を作り、芽が出るのを待ちました。すると、とうとう久蔵の願いがかな

キーワード

なわしろ
・苗代

かいせつ

田植えまでの間、
イネの苗を育てる
ための田



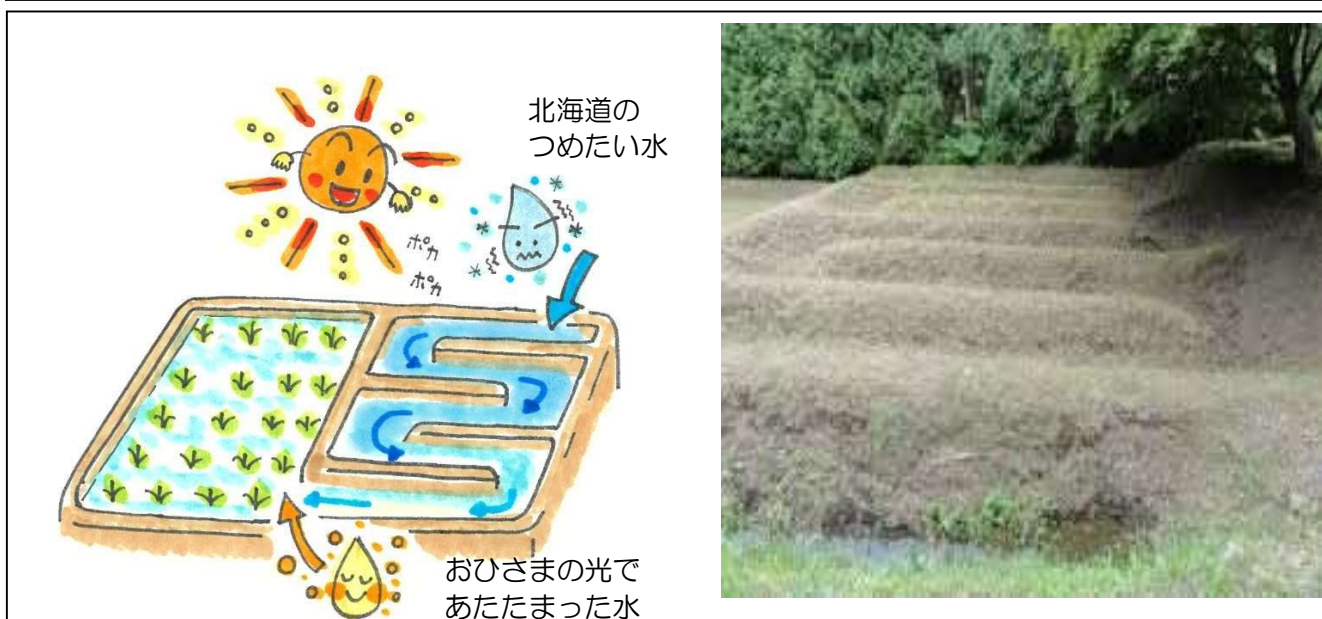
「種もみから芽を出すだけで、大変な苦勞をしたんだね。」

田んぼの水を温める！

久蔵は、苦労して育てたなえを、田んぼに植えることにしました。しかし、田んぼに引いた水は冷たく、うまくなえが育ちません。

これまで、久蔵の田んぼは島松川の上にありました。久蔵は、万次郎から水路作りのむずかしさを聞いていたので、ゆるやかな自然の坂を利用できる別の川から、水路を引くことにしました。久蔵は、高いところにある田んぼにはった水を、ゆっくりと下の田に流す「暖水路」を作り、水温を上げようと考えました。また、あたたかい水温を保つために、久蔵は家から風呂がまを持ち出し、夜通しお湯をわかしたそうです。

その年、久蔵のねばり強い努力が実り、345kgのお米を収穫することができました。次の年は不作に終わりましたが、あきらめることなく努力を続け、水田を広げていったのです。



☐ 暖水路のしくみ、久蔵の作った暖水路



「久蔵が、いろいろなくふうをしたことで米作りが成功したのね。」

「米作りに成功したけど、次の年は不作だったんだね。どうしてだろう。」



次につなげよう

稲作を広げるために、どんな苦労があったのだろう。

？この時間の問い

し ぜん 自然とのたたかい

米作りをしようとした農
民には、どんな苦勞があ
ったのだろう。

きゅうぞう 久蔵は、稲作に成功しましたが、次の年は
ふさく 不作でした。稲作をするためには、開こんと
ともに、自然とのたたかいがありました。

活動

いなさく
稲作をするために
どんな苦勞があったか
調べよう。



「久蔵のおかげで、寒い土地でも
稲作ができるようになったね。」

農民たちの苦勞を
ノートにまとめ、
話し合おう。



「でも、稲作をするには、いろい
ろな苦勞があったみたいだね。」

根とのかくとう

水田をつくるためには、広い原野を開こんするこ
とが必要です。下草をはらい、木を切りたおすこと
から始めなければなりません。直径50～6
0センチメートルの木を切りたおすのは、とても大
変でした。また木を切りたおしても、その後の根を
掘りおこすことに苦勞しました。時間をかけて、し
んぼう強く掘りおこしました。その手のひらには、
血まめが二つも三つもできたそうです。苦しい生活
を続けながら、しんぼう強く開こんを続けたのです。

れいかい 冷害

当時は、4年に一度は気温が低い年がありました。
イネは寒さに弱い作物です。とくにイネに穂ができ、
花がさく間の気温がとても大切です。この期間の気
温が低いと米の実がなくなります。当時の人た
ちは、たびたびおこる冷害に苦勞していました。

し ぜんさいがい 当時の自然災害

- 1880（明治13）年
 - ・バツタによる大被害
- 1881（明治14）年
 - ・バツタの大発生
- 1882（明治15）年
 - ・バツタの大発生
- 1883（明治16）年
 - ・バツタの大発生
- 1884（明治17）年
 - ・冷害 ・バツタの大発生
- 1888（明治21）年
 - ・冷害
- 1889（明治22）年
 - ・冷害
- 1890（明治23）年
 - ・水害
- 1893（明治26）年
 - ・冷害
- 1897（明治30）年
 - ・冷害
- 1898（明治31）年
 - ・北海道に大雨による水害
- 1902（明治35）年
 - ・冷害
- 1904（明治37）年
 - ・水害
- 1905（明治38）年
 - ・冷害
- 1907（明治40）年
 - ・水害
- 1909（明治42）年

水害もたびたびおこりました。水害にあうと、水田がどろ水につかってしまいます。どろ水が日光をさえぎると、イネの成長^{せいちょう}がわるくなり、かれてしまいました。また、水につかるとイネが弱るので、病気にかかりやすくなります。収穫^{しゅうかく}時期だと、イネがたおれて穂がどろまみれになるので、米の品質^{ひんしつ}がわるくなります。一年間の努力^{どりよく}が、水のあわになってしまいました。

トノサマバッタのしゅうらい

久蔵の稲作がきどうに乗り始めたころ、北海道の開拓^{かいたく}史上、大きなできごとが起きました。トノサマバッタの大発生でした。十勝^{と かつ}で発生し、胆振^{い ぶり}、日高^{ひ だか}、石狩^{い しかり}に広がっていきました。1879（明治12）年8月ごろ、ウオーンというおそろしいうなり声が聞こえ、空が真っ暗になりました。バッタの大群^{たい ぐん}でした。石油^{せき ゆ}かんをたたいたり、たいまつをたたいたりしましたが、じゅうたんのようしにきつめられたバッタを、追いはらせるはずはありませんでした。このトノサマバッタのしゅうらいは、久蔵の米の収穫^{えいきょう}にも大きな影響をおよぼしました。

1881（明治14）年には、340kgあった収穫も、1883（明治16）年には、収穫がゼロになってしまったそうです。



「農民は稲作をしたいと考えたけれど、自然とのたたかいがあったんだね。」

「北海道では、自然とたたかいながら稲作をしていたのね。」



キーワード

● れいがい
冷害

かいせつ

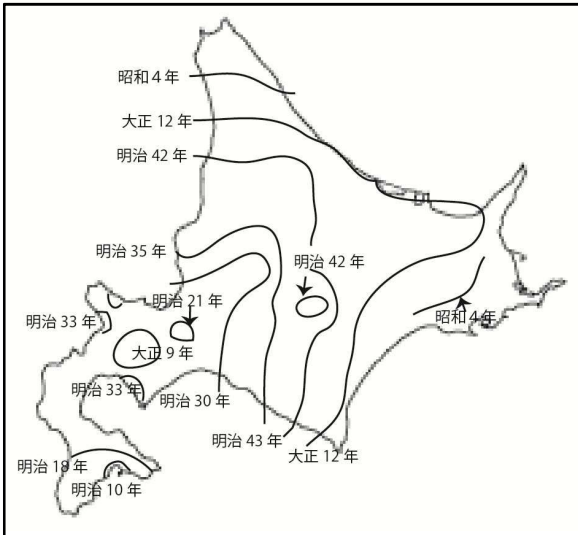
気温が低い日が続くことによる災害^{さいがい}

次につなげよう

北海道の稲作は、どのように広がったのだろう。

広がる米作り

あさひさんたちは、米作りが、北海道にどのように広がっていったのか調べることにしました。



ア 北海道の稲作の広がり



「政府は米作りを禁止していたよね。どうして広がったのかな。」

「道南地方でしか米作りをしていなかったのに、
久蔵が稲作に成功してから、年々広がっていったのね。」



？この時間の問い

どのように、稲作は北海道に広がっていったのだろう。

活動

北海道の米作りの広がりを調べよう。

久蔵は稲作を広めるために、どのようなことをしたのか調べよう。

政府が米作りをどのようにすすめたのか調べよう。

稲作を広める久蔵

久蔵は、よく育ったイネを選んで種もみを取り、次の年に植えることをくり返しました。久蔵が育てた「赤毛」は、年々寒さに強くなり、「石狩赤毛」とよばれるようになりました。

「石狩赤毛」は、「中山種」とよばれ、石狩平野の人々からたたえられました。久蔵は、石狩、空知、上川地方の自分と同じくお米を育ててみたいと思う人に、お金をもらわずに100俵（6000kg）の種もみを分けてあげました。

1886（明治19）年に北海道庁ができると、これまで畑作や酪農に力を入れていましたが、米作りにも力を入れることにしました。

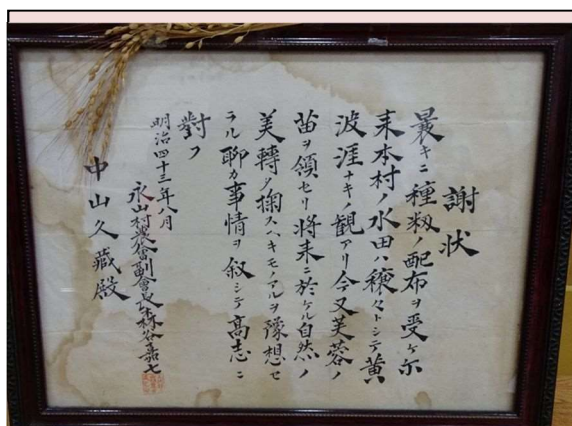
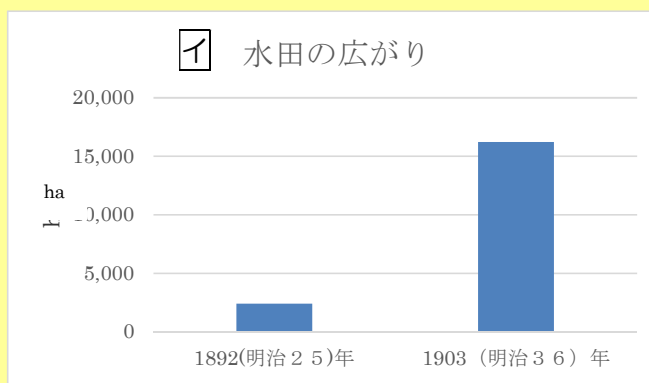


『米をつくりたい。』という開拓^{かいたく}している人々の願いや、
稲作を成功させたいという久蔵^{とくぞう}の努力^{どりよく}が政府の考えを
か
変えさせたんだよ。」

政府も稲作をすすめる

1892（明治25）年、北海道庁は農学博士^{のうがくはくし}の酒匂常明^{さこうつねあき}をまねきました。常明は、積極^{せっきよくてき}的に稲作をすすめました。1893（明治26）年に北海道庁は稲作試験場^{しけんじょう}をつくり、米作りの研究をはじめました。また、久蔵に農民^{のうみん}への稲作指導^{しどう}をお願いしました。1902（明治35）年には法律^{ほうりつ}をつくり、水田開発^{かいはつ}をすすめました。石狩川^{しゅうへん}周辺に水田に水を引くための用水路^ろなどをつくりました。

たった10年間で水田が8倍にも広がったのです。



ウ 久蔵への表彰状^{ひょうしょうじょう}（永山村^{ながやまむら}）

1919（大正8）年、久蔵は92歳の一生を終えました。次の年、北海道の米の収穫量^{しゅうかくりょう}は、久蔵が夢見ていた100万石^{こく}（15万トン）をこえ、おいわいの会がせい大に開かれました。

1961（昭和36）年には、北海道の米の生産量^{せいさんりょう}（約85万トン）が日本一となりました。



「お米ができない北海道が、日本一だなんてすごいことだね。」

次につなげよう

その後、久蔵の願いはどのように受けつがれたのだろう。

？この時間の問い

久蔵の願いを受けつぎ、稲作をさかんにするために、どのようなくふうや努力をしてきたのだろう。

活動

おいしい米をつくるためのくふうや努力を調べよう。

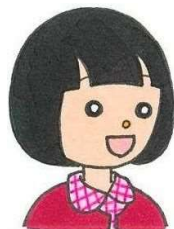
水田づくりのくふうや努力を調べよう。

キーワードをもとに、北海道の農業がさかんになったわけをまとめよう。

きゅうそう ねが 久蔵の願いを受けついで

久蔵や農民などの努力があって、北海道に農業が広がっていきました。しかし、日本有数の米の生産地になるためには、多くの人たちのくふうや努力がありました。

「久蔵の願いを受けついで、どんなことをしてきたのかな。」



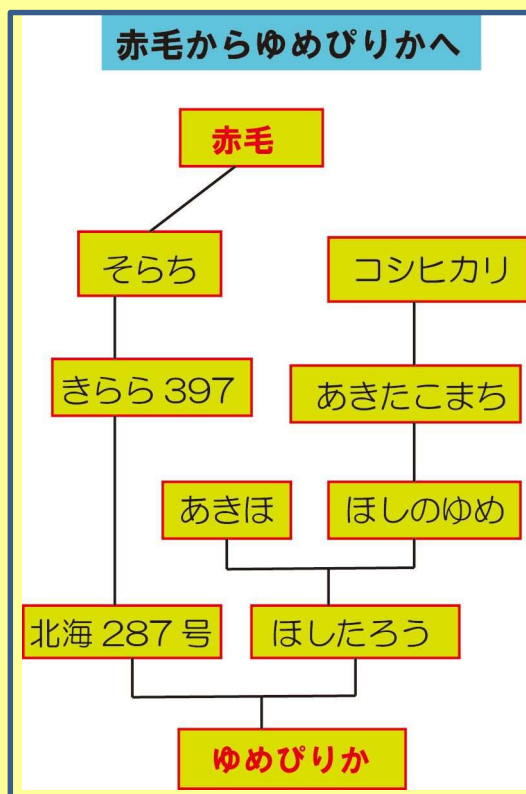
「米作りをすすめていく上で、どんな苦労があったのかな。」

寒さに強い稲から、おいしい米へ（品種改良）

久蔵は、寒さに強い稲「石狩赤毛」

をつくりました。久蔵の努力のおかげで北海道に稲作が広がり、米の生産量は日本一となりました。しかし、おいしさでは本州の「ササニシキ」や「コシヒカリ」に北海道の米は勝てないといわれていました。そこで、寒さに強く、おいしい米がとれる稲をつくろうと努力してきました。

1980（昭和55）年から北海道にある農業試験場を中心に根気強く品種改良をすすめ、今では全国で特Aの高い評価を得ているブランド米ができました。



きゃくと 客土

えにわ

恵庭市のある石狩地方は、北海道のなかでも稲作のさかんなところですが、かつては稲作にむかない土地でした。

石狩地方は「でい炭」が積み重なってできた土地でした。「でい炭」とは、寒さで植物がくさらないために養分^{ようぶん}がなく、農作物^{さいばい}の栽培にてきさない土です。そこで農民^{のうみん}たちは、山から養分のある土を馬そりで田んぼに何回も運びました。土地をよくするために他のところから土を運ぶことを「客土」といいます。農民たちは、土地をよくする（土地改良^{かいるょう}）ためにも努力をしたのです。



客 土

かんがいしせつ

農作物をつくるためには、安定した水の量^{りょう}が必要です。特に稲をつくる水田には、水がかかせません。そのために「かんがいしせつ」である用水路やはい水路、ため池やダムをつくる努力を^{つづ}続けてきました。



北島松のはい水路

のうぎょう ぎじゅつ 農業技術

久蔵が稲作に成功した時にくらべると、農業技術^{せいこう}はかくだんに進歩しました。久蔵はお風呂のお湯であたためて^{なえ}苗を育てましたが、今はビニールハウスの中で育てます。また、いろいろな機械^{きかい}が使われるようになり、便利^{べんり}になりました。



「いろいろな人たちのくふうと努力が
北海道の稲作をささえてきたんだね。」

キーワード

- ひんしゅかいるょう
品種改良
- 土地改良
- かんがいしせつ
- のうぎょう ぎじゅつ
農業技術

次につなげよう

稲作のほかに、久蔵は何か残^{のこ}したのだろうか。

この時間の問い

稲作の他に、
久蔵が地域のために
どんなことをしたのだろう。

活動

久蔵が地域に残したものを調べよう。

久蔵は、どんな人か話し合おう。

久蔵の住んだ島松駅てい所

1884（明治17）年8月16日、久蔵が島松駅てい所（開拓に来た人や旅人が泊まるしせつ）の4代目取扱人に命じられました。

そのころ明治政府は、1872（明治5）年から1885（明治18）年にかけて6回、天皇による全国巡礼を実施しました。そして、この島松駅てい所にも明治天皇が訪れました。

駅てい所

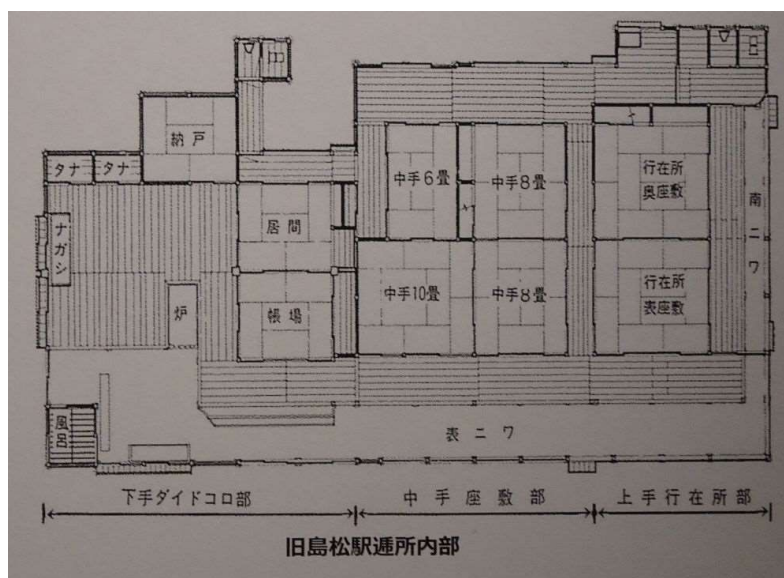
北海道に人が多くなかった時代に、開拓に来た人や旅人の宿泊所として、また、人馬をかし出すところとして各地に作られた。「旧島松駅てい所」は現存する最古の駅てい所で、もとは中山久蔵宅だった。国の史跡に指定されている。



島松駅てい所



明治天皇



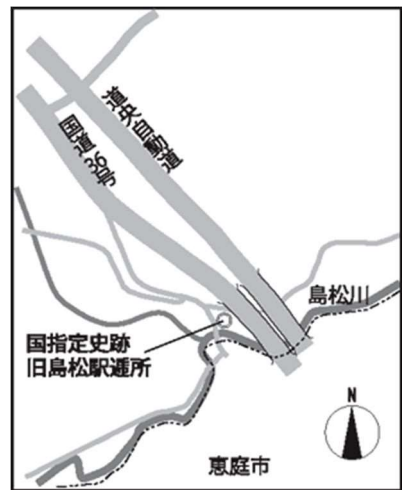
島松駅てい所内部



工 島松駅てい所と鳥居



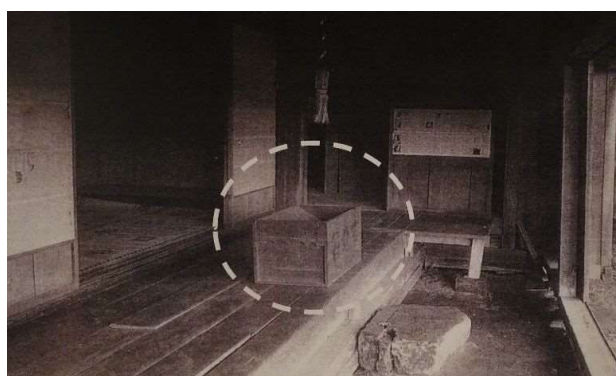
才 島松駅てい所内の神社



力 旧島松駅てい所
島松駅てい所の現在の位置



キ 記念碑



ク 家の中にあったさい銭箱

島松駅てい所は、
今も残されてい
て、北広島に行く
と見ることができ
るんだよ。



キーワード

・島松駅てい所

次につなげよう

今につながる久蔵の
努力をまとめよう。

明治天皇は、この島松駅てい所で、久蔵の作
ったお米を食べ、さらに米作りについて質問を
しました。久蔵は1873（明治6）年から1880（明
治13）年まで育ててきた稲穂を見せながら質問
にこたえました。久蔵の説明に大変満足した明
治天皇は、久蔵にほうびをあたえました。

久蔵はこのできごとを大変うれしく思い、自
分で家の裏側に大きな記念碑を建てました。そ
して、明治天皇が訪れたことで、島松駅てい所
は聖蹟（天皇が訪れた神聖な場所）とされまし
た。鳥居やさい銭箱が設置され、神社として活
用されるようになりました。



中山久蔵さんを表彰しよう

かずやさんたちは、中山久蔵がどのように寒い北海道で米作りをすすめたのか、調べたことをふり返ってみました。

中山久蔵にわたす表彰状をつくろう。

— ? この時間の問い —

中山久蔵の米作りと、今の北海道の米作りとのかかわりをまとめよう。



「北海道で米をつくりたいという農民たちの願いをかなえるために、米作りに努力したところがすごいな。」

活動

中山久蔵の米作りについて、話し合おう。

話し合ったことをもとに、表彰状をつくろう。

表彰式を行い、気づいたことを話し合おう。



「農民に米の種もみをくばり、米の作り方について指導して、米づくりを広げていったのね。」

次に、二人一組になって、表彰式を行いました。



学びのてびき

調べた内容をもとに表彰状をつくる

- (1) 二人で一組のグループをつくる。
- (2) 表彰状作りに必要なキーワードをかく。
- (3) グループごとに「この時間の問い」をふり返り、当時の人々の願いや、中山久蔵の苦労・努力について話し合う。
- (4) キーワードや学習してきた内容をふまえて久蔵に向けて表彰状をつくる。
- (5) 表彰状を読み上げる人と受け取る人を決め、表彰式を行う。



キーワードをふり返ろう

- ・開こん
あか げ しゅ
- ・赤毛種
- ・暖水路
だんすい ろ
- ・寒冷地稲作
かんれい ち いなさく

表彰状

中山久蔵様

あなたは、むずかしいと言
われていた、『寒冷地稲作』
にあきらめずに取り組みま
した。今、私たちはあなたの
努力でお米を食べてくださ
ることができています。あなた
の努力に心から感謝の意を
表します。

令和元年十月二十三日

若林 あさひ



「中山久蔵の努力があって、気温が低く夏が短い
北海道でも米づくりがさかんになったね。中山
久蔵のおかげで、北海道は日本で有数の米の産
地になったのね。」



「中山久蔵の願いが受けつがれ、品種改良，土地
改良，農業技術の向上が進められてきたね。多
くの人たちの苦労や努力が、北海道の米作りを
ささえていたんだね。」